

未熟児とくに極小未熟児にみられる母子相互作用

○竹内 徹（大阪府立母子保健総合医療センター周産期第2部）
藤村 正哲（ ” ” ）

わが国の現状から考えると、NICUを含む新生児特殊看護室への両親の入室は、今なお問題点が多く、新しい施設において一部実施されているにすぎない。1976年以来、われわれは、淀川キリスト教病院において、可能なかぎり両親とくに母親の入室を許可し、早期接触・早期保育参加および早期退院を実行してきた。

この間過去3年間において、関西学院大学文学部教育心理学教室および大阪大学文学部人間科学教室の協力を得て、未熟児とくに極小未熟児における母子相互作用および母子関係の成立について研究してきた。

心理学的側面としては、上記病院退院乳児を対象に、母子分離の母性行動に与える影響について、retrospectiveな調査を質問およびinterview形式で行った。その結果(1)極小未熟児の母親は、退院後の乳児期初期において子どもとの適応関係が得にくいと、溺愛的傾向が強く、情緒的安定の時期が遅れること、すなわち早期からの母子相互関係の円滑な成立が障害されやすい状況にあることがわかった。(2)早期の母子接触（視覚および皮膚接触）は回を重ねる毎に、母親の愛着の成立を促進させる。しかし神経症的傾向尺度の得点の高い母親に対しては十分配慮して、初期対面から退院迄指導することが必要であると考えられた。

一方、初期対面時の母親の行動を、VTRを用いて、とくに児の行動に対する母親の表情にあらわれる変化をとらえ分析を試みた。その結果、保育器内養護児の母親の初回対面場面では、母親の行動には、消極的反応が多かったが、医療者側の支援があれば、子の自発的運動や能動的活動に対して、積極的に反応することが認められた。このことは、呼吸循環管理を出生直後から必要とする超未熟児の場合でも同じであり、両親が望めば、早期からの接触は両親のその後の適応を円滑にすることが推測された。

このことをさらに実証するため、同一方法で母子対面場面の継続的観察によって、未熟児の母子結合に重要と思われる要因を明らかにしようとした。継続場面の観察を(1)保育器内の子、(2)常時保育器内にいるが数分間抱いて器外保育の可能となった子、(3)常時コットにいて哺乳リン授乳の可能となった子、(4)沐浴等の保育場面で様々な世話のできるようになった退院直前の子と、それぞれ対応する母親の行動を、VTRによって観察し分析を試みた。その結果、器外保育の可能になる頃、母親は子に積極的に関わり始め、授乳や沐浴等の世話をすることによって、母子のbondingが強固になっていくように思われた。それは母と子のface-to-face interaction、子を指先きでなでる等の「いつくしむ行動」や、子を指でつつく、唇や舌で音を出す、子をゆする、軽く打つなどの子の覚醒レベルを調整すると思われる「あやす行動」が、次第に増加していくことによって証明された。

第3年目は、研究場所が大阪府立母子保健総合医療センターに移ったため、同一条件で行動観察を行うことはできなかった。しかしとくに同施設が、設計当初より母子関係を重視した設計が行われていること、両親の24時間入室可能、他の家族の面会はベット所在部分全域にわたり面会廊下を設置、高度の空調施設、1ベッドあたりの床面積の拡大、10数ヶ所におよぶ手洗い設備など、施設全体のシステムが前回までの施設よりさらに強化されている点である。当センターでは、分娩室から母子対面を行い、その後は母親が入院中何時でも面会が自由に行われる。また極小未熟児の70-80%は院内出生の形をとるため、母子の対面は、1日数回に及ぶこともある。

今回は、前記施設で行った入院中の母子対面の継続場面について、当センター入院中における母子関係を、主として両親の心理的・情動的反応の

面から調査を試みた。その結果、院内・院外出生児の両親とくに母親は、児の臨床経過と看護内容に対応して、漸次積極的な愛情を持つようになり、しかも急性期のNICUから回復期・成長期のコト室へ移行するにつれて、急速に強化されていくことがわかった。

今後は、同一システムのなかで、分娩室からの接触・対面、およびその後の入院経過中の継続場面で、両親の行動観察を行うべく計画中である。

現在は、児がNICUに入院した際最初に面会するのは父親であることから、父親の行動観察をVTRで開始したところである。急性期における父親の行動、その後の両親の行動変化、それに対応する心理的・情動的变化を同時に行う予定である。これら入院中の観察をもとにして、生後一定期間をみて追跡調査の場面で、母子できれば両親と子どもの相互作用を観察し、比較検討する予定である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



わが国の現状から考えると, NICU を含む新生児特殊看護室への両親の入室は, 今なお問題点が多く, 新しい施設において一部実施されているにすぎない。1976 年以来, われわれは, 淀川キリスト教病院において, 可能なかぎり両親とくに母親の入室を許可し, 早期接触・早期保育参加および早期退院を実行してきた。

この間過去 3 年間において, 関西学院大学文学部教育心理学教室および大阪大学文学部人間科学教室の協力を得て, 未熟児とくに極小未熟児における母子相互作用および母子関係の成立について研究してきた。